



ジェマイマ・ジュエル (CSR アジア パートナーシップ・ディレクター)

高橋 佳子 (CSR アジア シニア・プロジェクトマネージャー) 監訳

## 社員のスキル生かしてボランティア活動しよう

「私の学校には、何度も企業のボランティアがきて、壁のペンキ塗りをしています。もともと壁が何色だったかも覚えていません。ペンキ塗りよりも専門知識やアドバイスをくれたほうが良いと思います」

チャリティー活動を行う上でこのような声が非常に増えている。企業からの支援は非常に有り難いものであるが、学校や地域社会は、単なるペンキ塗りではなく何らかのスキルを企業に求めているのだ。実際に、企業は戦略的 CSR を実践するために社員のスキルを活用し、コミュニティと社員自身にとって本当に有益な活動に投資する傾向にある。

### スキル活用型社員ボランティア活動をどう行うか

CSR アジアでは、今年から特にスキル活用型の社員ボランティア活動に注目していて、その取り組みや理解、事例について企業、市民組織や社員に尋ね、調査を行った。その結果、企業が効率的、効果的かつ有意義な活動を行うための多くの実践的な見識が得られた。

最初に寄せられた質問は、「スキル活用型の社員ボランティアとは具体的に何なのか」であった。私たちは、社員のスキル、知識、経験、能力と専門性を使い、コミュニティやソーシャルビジネス、地方政府、非営利組織などのニーズにあったボランティア活動と定義している。しかし「では、そのスキルとは具体的に何か」という疑問が残る。もちろん社員の専門的なスキルや業務上で使用するスキルであるが「スキル」という言葉にとらわれずにその幅を広めることで面白いプロジェクトが立ち上がる可能性がある。以下に例を挙げてみる。

・ **コンサルティングとキャパシティ・ビルディング**：最もよくみられるタイプの活動で、社員がビジネスの精神を持って課題や問題にアプローチし解決に貢献することである。それは一度限りのプロジェクトであっても継続的にトップレベルの人の相談相手になるなどさまざまな活動が考えられる。

・ **特定の専門スキル**：例えば、電気関係の修理や設置などのサービス提供、またはトラックの運転など手や体を使った

スキル、さらに法的アドバイス、簿記、IT など知識をベースにしたスキルを活用することができる。

・ **受益者へ直接届くサービスの提供**：NGO ではなく、直接受益者をサポートする活動。例えば起業家へのアドバイスや若者を対象にライフスキルのワークショップを開催したりすることなどが挙げられる。それにはコーチングスキルや英語能力などのスキルが必要になる。

経営者や受益者と実際に話をした結果、何が効果的な活動で、何が効果的でないのかについての結論が見えてきた。はじめに言えるのは、スキル活用型社員ボランティアを実施するのは容易なことではなく、すぐに何かできるということではないこと。取り組むべきニーズを特定し、普段のビジネスにかける思いと専門性を忘れず、その活動の結果を注意深く管理するために、時間と努力を投資することが必要である。

パートナーと率直に対話することもきわめて重要だ。プロジェクトにかかわる期間を設定し、本当に何が必要かを前もって把握するために時間を取る。両者にとって、互いのパートナーが何を期待しているかを把握することで成功するか失敗に終わるかが決まる。プロジェクト実施前にベースラインを設定し、終了後も、どのような影響がもたらされたか監視し、評価することが重要だ。

誤解のないように言うが、従来型のいわゆる時間を費やすボランティアを否定しているわけではない。従来のボランティアは、チャリティーに負担をかけずに何の害もないと企業が認識している限り、社員の参加を促し、チャリティー精神を増すためには有効的だと言える。しかし、多くのチャリティー団体が企業の専門性を有効活用したいと思っていることは確かだ。

スキル活用型社員ボランティアの取り組みは容易ではないが、企業と地域社会にとって非常に有益になりうる。重要なのは、いつもコミュニケーションが取れるような体制を整えておくことだ。「速く行きたいなら、一人で行きなさい。遠くへ行きたいなら、みんなで行きなさい」、このことわざが示している通りだ。

【ジェマイマ・ジュエル】 CSR アジア会員ネットワークの責任者。企業サステナビリティ戦略の経験が豊富で、特にインクルーシブビジネスに強い関心を持っている。またシナリオプランニングやビジョニングを用いた組織的変革などが専門。